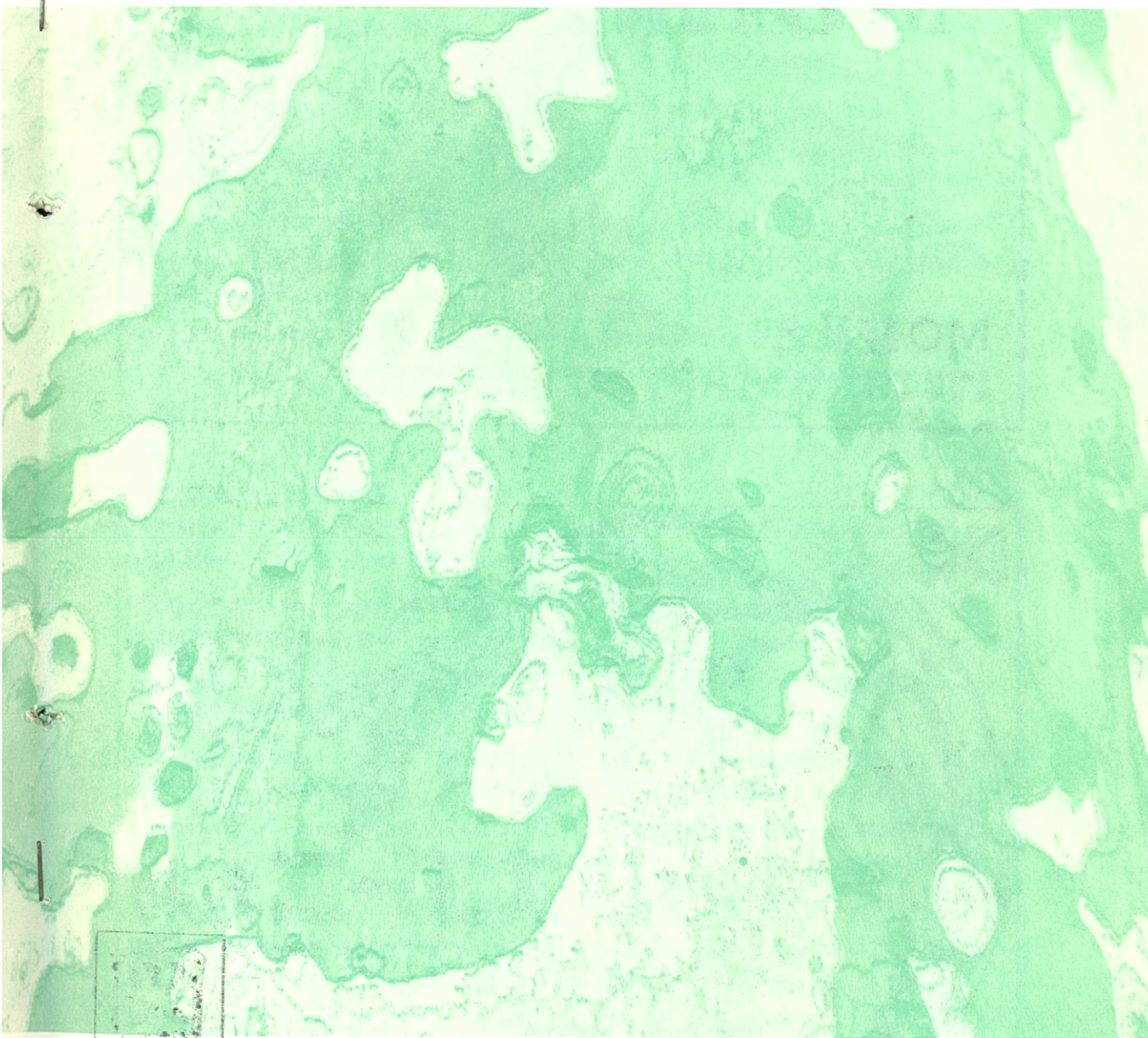


調 植

第 9 卷 第 4 号



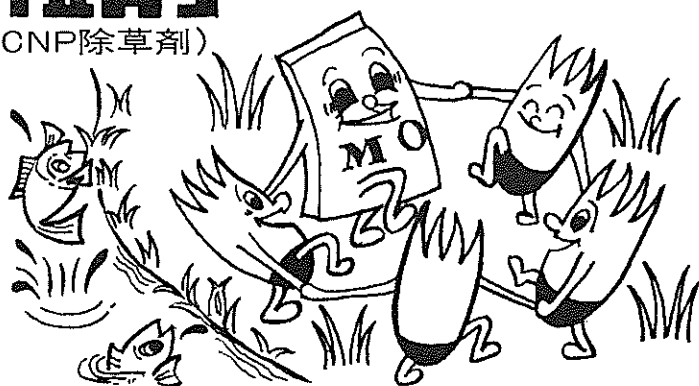
財団法人 日本植物調節剤研究協会編

安全でよく効く!

——水田除草剤——

MO粒剤

(CNP除草剤)



MO普及会

取扱会社 クミアイ化学、三共、北興化学、八洲化学、日本農薬、サンケイ化学、三井東圧農薬
事務局 東京都千代田区霞が関3-2-5 (霞が関ビル) 三井東圧化学株式会社内



稚苗移植栽培が急速に増加するにつれ、抑草期間が長く、しかも安全な除草剤への要求は、ますます強くなっています。エックスゴーニ粒剤は、これらの要求にピッタリの除草剤です。

田植前後に——

エックスゴーニ粒剤

■頼れる水田除草剤■

代かき後7日以内
にお使いください。

エックスゴーニ協議会



日本農薬株式会社
〒103 東京都中央区日本橋1-2-5



石原産業株式会社
〒550 大阪市西区江戸堀上通1-11-11

資料請求券
植 調
エックスゴーニ

畑 かん 営 農

わが国における畑作農業の生産性向上のむずかしさは、水利の便が悪く、土壌条件の劣悪な畑地を基盤としているところにある。農民の英知と生産技術の進歩により、それぞれの畑作地帯で適作物が選択され定着してきたが、きびしい自然条件のもとで適作物と目されてきたものであっても、生産が不安定であることは、過去の多くの事例に示されている。わが国における水利利用技術の進歩は、畑作生産の安定化に貢献していることは周知の通りであり、旱害回避、播種・定植の適期作業を図ることが可能となったばかりでなく、多目的な水利利用、例えば農薬、液肥の散布、短期間の湛水処理による土壌病害防除、霜害防除など多くの技術開発の可能性が実証されつゝある。また、作物選択の幅が拡大されつゝあることも見逃しえない大きな効果である。畑かん施設の導入により、かんしょ・むぎが基幹作物であった南九州畑作地帯では、さといもを中心とする露地野菜・たばこへと移りつゝあり、かんしょ・らっかせい・りくとう・むぎが基幹作物であった関東畑作地帯でも、さといも・しょうが・すいか・だいこん・はくさいなどの作付比率が高まりつゝある。畑かん営農における集約的作物への転化は、農家経済の面からは好ましい傾向であるが、野菜生産の無制限な拡大は望めないであろうし、野菜作との作季の競合から、むぎなどの禾本科作物が消滅しつつあることは、地力維持資源の枯渇をきたし、畑地生産力の低下を招くおそれがある。畑かん営農にあたっては、水利利用のプラス効果を生かすと同時に、マイナス的影響を如何にカバーしていくかが、一つの課題と思われる。

(農林省農事試験場畑作部長 尾崎 薫)

目 次 (第9巻第4号)

第5回APWSS会議の

日本開催にあたって……………	2
＜東北農業試験場 野田健児＞	
・まえがき……………	2
・APWSSの目的と経過……………	2
・APWSSの組織、構成……………	4
（アジア・太平洋雑草学会規約）…	4
・第5回会議日本開催について……	7
・むすび……………	9

昭和49年度秋冬作芝生関係

除草剤試験成績概要……………	9
＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞	
・昭和49年度秋冬作芝生関係 除草剤試験薬剤判定表……………	10

水田の多年生雑草の発生面積一覧表…

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

植調協会だより……………	16
--------------	----

お わ び

当誌本号の発行が大変おくれ 読者各位にご迷惑をおかけいたし、まことに申しわけなく存じております。予定していた原稿が集まらず、中途半端な編集で発行せざるを得なくなり、編集子としても心苦しき次第ですが、何とぞご容赦下さい。次号よりは、順調に編集し、発行してゆく所存でありますので、今後とも、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

第5回APWSS会議の 日本開催にあたって

農林省東北農業試験場栽培第1部長 野田 健児

まえがき

APWSS は Asian-Pacific Weed Science Society (アジア・太平洋地域雑草学会) の略称である。この国際会議も回を重ねることすでに第5回目、初期より日本での開催が外国会員より希望されながら我が国の体制が整わず開催は仲々実現しなかったが、愈々第5回会議を今秋10月5日から11日までの1週間、東京の学術会議講堂を会場として行なわれることになったわけである。開催のための準備には日本雑草学会と(財)日本植物調節剤研究協会の協力による第5回会議組織委員会(委員長:戸荻義次先生)の絶大の協力によりプログラム作成が目下着々と進行している次第である。

元来、日本のみでなく世界のいずれの国でも雑草研究、雑草防除研究が学問的背景を裏付けとして発達するようになったのは極めて浅く、第2次世界大戦後の2,4-D, MCPAなどの有機除草剤の開発、普及に刺激されることが大きい。また最近では、環境保全的要素が強くなると共に雑草防除の有力な武器である除草剤の与える懸念、また雑草そのものの公害的要素も考えて一面的な除草剤によるのみの防除技術から多面的要素を調和した技術の要請が起こり、そのために雑草害の認識、雑草の生理生態の基礎に基づいた技術が必要となってきて、雑草防

除も雑草科学の背景を必要とすることがより強調されてきた。このような情勢の中で雑草防除の国際会議を日本で開催することは先進国、発展途上国を問わず雑草技術、雑草研究の現状を把握し、正しい雑草防除技術を発展させるために極めて有益である。とくに専門分野として遅れている雑草研究の位置付けを明確にするための認識の場としても与えられたよい機会であると考えられる。

ここに第5回会議を開催するに先だって、APWSS のこれまでの経過、意図する目的、また第5回東京会議の準備状況などを紹介することは、すでに会員として過去の会議に参加された方々には勿論、この会議に初めて参加される方々への予備知識として極めて有益であると考え「植調」編集委員に乞われるまゝ、筆を執った次第である。

APWSS の目的と経過

APWSS の設立の経過をたどってみると、当初から現在の学会組織として発足したものではない。1967年の6月12日から22日まで米国ハワイ州でアジア、太平洋地域、米国、その他の20数か国の雑草研究者による「第1回アジア・太平洋地域雑草防除技術交換会議」がハワイ大学東西センター、および熱帯農学部的主催で行なわれたのを機会に交換会議最終日

に学会としての組織づくりの決定されたのがその出発点である。

このときの交換会を第1回の会議として認定し、第2回はフィリピンのロスバノス国際稲研究所において1969年6月16日から1週間、ついで第3回はマレーシア、クアラルンプールで1971年6月7日から1週間、次いで第4回は1973年3月12日から16日までニュージーランド、ロトルアで行なわれた。この過程において現在の学会としての組織づくりが

確立したのは第4回の会議においてである。

過去4回の会議に代表者を送った国、または地域をみると第1図のようにアジア、太平洋地区に集中しているが、欧州先進国からも参加がみられた。また第4回においては、アフリカの東海岸国からの出席もみられ、世界的な雑草研究の国際学会が未だ形成されない現在では、*最も広い範囲をカバーする国際会議となっているといつてよからう。

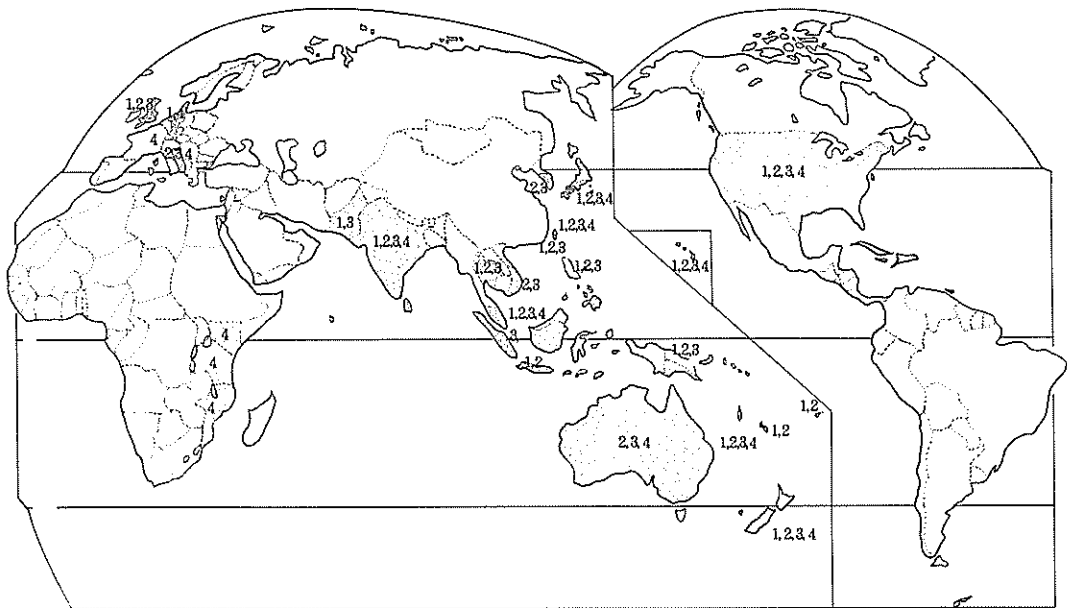


図1 過去のAPWSS参加国の分布(国および地域ごと)

注: 数字は1, 2, 3, 4回目の会議参加を示す。

APWSS 学会の目的は、①雑草研究、雑草防除技術の進歩の程度は温帯地域国と熱帯地域国とで著しい差があり、熱帯地方における食糧不足をカバーするための雑草防除の重要性の認識、Furtick 氏のいえるように農業の基本的生産要素は、品種、肥料、土壌、水、土地およ

び気候にあるが、適切な雑草防除技術なしでは、前記の改良された技術もかえって収量減をもたらすといっているごとく、雑草が熱帯食糧生産の一つの制限因子であることを確認することである。②学会の第2の目的としては先進国、発展途上国における雑草防除技術の情報の交換を

*: FAOによる第1回の国際雑草防除会議 (FAO Int. Conf. on Weed Cont.) が1970年米国カルフォルニア大で行なわれたのを契機として Int. Weed Science Society の形成が進められている。

充分行なうことである。熱帯では依然として原始的な多労な雑草との戦いがくりかえされており、これからの開放はこれらの地帯の文化、教育水準の上昇にも密接に関係するといわれる。

③今後の雑草研究教育の必要性の認識を進めること。また先進国では数千の研究者がいるのに対して、熱帯では数百にすぎない。雑草技術の進歩には、教育、訓練の必要性が極めて高く、その意識を確立すること。

以上のように学会の意図する目的は、当初3つに大別され、この目的は第1回から第4回まで守られている。したがって、各国現状のレビュー的な情報提供報告が多く、最新レベルの研究報告は必ずしも多くない。その点では既存の国際会議のように最も新しい知見の提出、討論とは若干趣を異にすることが多い。したがって、作目的には温帯、熱帯作物のすべてをカバーするのみでなく、雑草問題そのものが耕地を対象とするのみならず環境とのかゝり合いも多いところから、非耕地、林野、水利用地帯での問題にまで及んでおり、また除草剤についてはその合成から新薬剤のスクリーニングテスト、基礎的な作用機構までの広がりをもった情報の場となってきた。したがって、参加者、参加国は、先進国から発展途上国までと著しい程度の差があるものを含めると共に、会員も大学、政府機関、民間と異なった立場の人々を包含することも一つの特徴であろう。

APWSS の組織、構成

アジア・太平洋地域雑草学会 (Asian - Pacific Weed Science Society) が学会としての組織体制を整えたのは1971年6月の第3回会議以後ニュージーランドの L. J. Matthews氏 (前会長) の精力的な活動に負う

ところが極めて大きい。氏は会長、庶務幹事、会計幹事、編集と1人3、4役を兼ねた状態で規約の草案作成、役員への回覧による修正、改正を重ねて最終案を第4回ニュージーランドでの総会に提出し、可決されたものである。規約の概要を以下に紹介しておこう。

(アジア・太平洋雑草学会規約)

1. 名称：学会名は法人「アジア・太平洋雑草学会」(Asian-Pacific Weed Science Society) と称する。以下「学会」と呼ぶ。

2. 目的：目的は雑草学関係の情報知見の収集、交換により雑草学の促進、とくにアジア、太平洋地域について重点的に進める。

3. 会員：次の4会員の区別を設ける。

(i) 普通会员

(ii) 賛助会員

(iii) 名誉会員

(iv) 準会員

4. 入会方法

(i) 普通会员：学会の目的に関心のある個人。

(ii) 賛助会員：学会の目的に賛同し、2年ごとの賛助会費を納入する会社 (管理会社)。

(iii) 名誉会員：学会に対して顕著な功績があり、2年ごとの定例総会、または特別総会で推挙された会員。

5. 退会方法：(i) 会員は幹事に報告し、確認されることによって退会しうる。(ii) 4年以上会費未納の会員は会員資格を除かれる。しかし、滞納会費あるいは役員会によって決定される一定の額を支払うことにより再び会員になることができる。

6. 学会の役員：学会の役員は、(i) 会長、(ii) 副会長、(iii) 庶務幹事、(iv) 会計幹事 (無報酬) とし、2年ごとの総会で選出され、総会後3か月

間次の役員への引継として事務をとる。新役員は選出と同時に事務を開始する。

7. 委員会：委員会は会長、副会長、庶務幹事、会計幹事、前会長、委員（6名）で構成する。委員会は委員に事故ある場合新委員を指名、また3名以内の別の協力委員を選出することができる。

8. 委員の選出：委員は2年ごとの総会において役員と同時に同じ方法で選出される。

9. 委員会の権限：委員会は規約に基づいた学会のすべての権限を持つ。

10. 委員会の権限の委任：委員会はその権限、義務を問題解決に適当な小委員会に委任したり、また会員非会員のいかに拘わらず委員選出の権限をも小委員会に許可することができる。

11. 委員会の成立定数：委員会は4名を成立定数とする。

12. 学会の後援団体：後援団体は会長在任の国より選ばれる。

13. 総会：(i)総会は2年ごとの会議の際、または委員会の決める日時、場所において開催される。(ii)もし学会のときに開催されない場合には、予め少なくとも3か月前にそれに代わる総会の日時と場所を全会員に通知する。(iii)総会では収支決算を報告する。(iv)総会では2年間の一般経過報告を行なう。(v)総会（または特別総会）の成立人数は15名とする。

14. 賛否表決：普通会員、名誉会員のみが賛否表決権を持ち、総会における座長の判断に基づき「発声」または「挙手」によって表決される。もし会員の要求があれば投票（Ballot）による。

15. 特別総会：特別総会は委員会の決定する時、または少なくとも20名の会員の目的を明確に示した要求により、庶務幹事に申し出るこ

とによって開かれる。その日時と場所は、少なくとも3か月前に全会員に通知する。

16. 基金：学会の基金は財政関係の管理者である会計幹事に払い込む。支払いは委員会の許可を得て行なう。

17. 銀行口座：学会の銀行口座は庶務幹事、会計幹事、学会の2名の委員、または委員会に指名された人で管理され、小切手や現金の引出認可は2名の署名が必要である。

18. 財政年度：学会の財政年度は各年4月30日か、あるいは委員会によって決定される日に終わる。

19. 会計監査：2年ごとの総会で会計監査（無報酬）が選出される。

20. 会費：会報（Proceeding）その他を含めた2年ごとの会費は4 u.s. ドルであり、その他の経費は会議開催の際にその都度決定される。準会員の会費は普通会員会費の1/2である。非会員は委員会で決められた日当参加費を会議参加の際に支払う。

21. 学会印：学会印（Seal）は庶務幹事が保管し、委員会の指示によって庶務幹事および1名の委員立合の下に文書に押す。

22. 規約改正：学会規約は出席会員の2/3の賛成、および少なくとも3か月前に郵送により内容を会員に通達することにより、総会において改正、廃止、あるいは追加することができる。

23. 基金借用権：学会は借金することができる。

24. 財産の譲渡：学会解散のときには基金や学会の財産は本学会と同じ、あるいは類似の目的を持った団体か、または総会で会員によって決定される慈善団体か慈善目的に譲渡される。

25. 公用語：学会公用語は英語（English）とする。

26. 通貨：学会の通貨はU.S.ドルとする。

学会の構成国，または地域の主体はアジア，太平洋地域であるが，その他の地域も何ら参加することに制限はない。第4回会議にはソビエト，中国，イスラエル等にも招待状は出されたのであるが，残念ながら参加はみられなかった。地帯的に第2図のように区分され，各地域には推進員（Convener*）が指命され，その国，

地域内の会員の把握，情報の伝達，会議参加の要請などを取りまとめることになっている。

1971～1973年度第4回学会のためには，日本，韓国の Convener として筆者がその任に当たった。1973～1975年の現在は，農業技術研究所松中昭一氏がその任に当たられている。

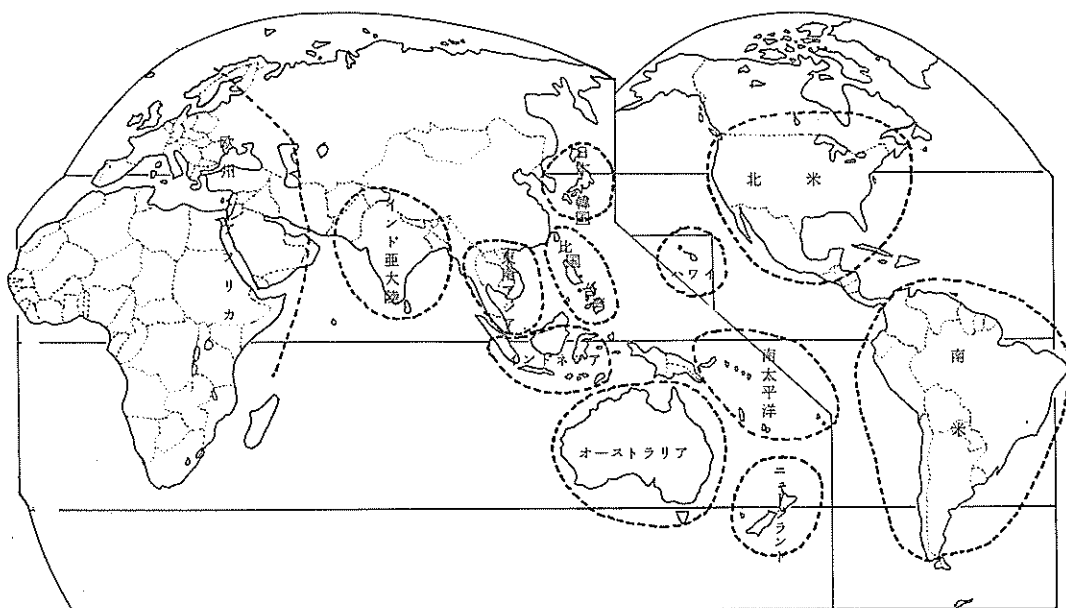


図2 APWSS学会の地域区分（1971—）

また学会の進歩，発展のためには，他の類似の国内学会（National Society）または地域学会（Local Society），国際学会（International S.）との密接な連絡，情報の交換が必要であるという意図から，各国学会，または各地域学会との親睦関係確立を，Matthews氏は強力に進めてきた。筆者もこれを踏襲してきたものであり，現在，このような学会団体としては下記の11が数えられる。会議開催の際には，これらが主力後援団体になる

ことになっている。

The Weed Society of Victoria
（オーストラリア）

The Weed Science Society of
South Australia（オーストラリア）

The Weed Society of New South
Wales（オーストラリア）

The New Zealand Weed and Pest
Control Society（ニュージーランド）

Weed Science Society of

* 役員（officer）又は委員（Executive Committee）が兼ねる場合が多い。

Indonesia (インドネシア)
Weed Science Society of India
(インド)
Weed Science Society of America
(USA及びカナダ)
Weed Science Society of Japan
(日本)
Weed Science Society of the
Philippines (フィリピン)
European Weed Research Society
(欧州)
Asociacion Latino Americana de la
Ciencia de Malezas (ラテンアメリカ)

第1表 一般講演申込数 (中間集計)

分	類	国外	国内	計
I	雑草防除技術の現状	2	0	2
II	雑草の生物学, 生態学	9	7	16
III	雑草の生理学, 生化学	2	2	4
IV	雑草防除技術	24	19	43
	1) イネ作	7	6	13
	2) 畑作	8	0	8
	3) 野菜	2	0	2
	4) 果樹	0	3	3
	5) 熱帯プランテーション	2	0	2
	6) 草地	2	2	4
	7) 林業	1	7	8
	8) 水生雑草	2	1	3
V	生物的雑草防除	1	1	2
VI	除草剤・化学的防除	13	30	43
	1) 除草剤の作用選択性機構	1	5	6
	2) 除草剤の作用特性	4	6	10
	3) 除草剤と土壌	1	2	3
	4) 除草剤の残留・安全使用	5	5	10
	5) 除草剤の施用技術	0	2	2
	6) 新除草剤のデザインおよび紹介	2	10	12
VII	雑草の総合防除	2	0	2
VIII	雑草学の教育	1	0	1
IX	雑草防除技術の経済的評価	1	0	1
	計	55	59	114

第2表 シンポジウム話題とその提供予定者

Integrated Weed Control
(雑草の総合防除)

1. H.Chisaka (日本).....Weed damage to crops
2. K.Noda (日本)..... Integrated weed control in rice
3. R.R.Romanowski (USA)..... Integrated weed control in upland crops and vegetables
4. A.K.Seth (マレーシア)..... Integrated weed control in tropical plantation crops
5. L.J.Matthews (ニュージーランド)..... Integrated weed control in forage and grazing lands
6. M.Soorjani (インドネシア)..... Integrated weed control in aquatic areas
7. L.A.Andres (USA)..... Biological weed control
8. P.C.Kearney (USA)..... Herbicide problems in environment
9. S.K.DeDatta & R.Barker (フィリピン)..... Economic evaluation of modern weed control techniques in rice
10. W.B.Ennis Jr. (USA)..... Integration of weed control techniques

第5回会議日本開催について

第5回会議は日程、日時の若干曲折はありながら、すでに公表されているように10月5日から11日まで、東京学術会議講堂において開催されることとなっている。一般発表については当初からのAPWSSの学会設立目的を踏まえて、中間的な申し込みの集計では第1表のように雑草研究のすべてをカバーする予定であり、さらにまた最近の環境問題の中で除草剤の利用技術の軌道修正も含めて「雑草の総合防除」のシンポジウムが会議日程中に組み込まれる予定である。これの運営には農林省との共催を予定しているわけであり、第2表のようにシンポジウムの話題提供者も10名が予定されている。

また、開催国が日本であるということは、日本における農業または農業研究、雑草研究の現実をできるだけ外国の人に理解してもらうこと

も一つの本会議の目的であろう。このことについてはオランダの著名な雑草研究者である Vander Zweep 氏の強い申し出がある。第4回にはニュージーランド Session を設け、ニュージーランドの紹介に多くの時間が割かれたが、それに類するプログラムは当然考えられている。

プログラムの詳細は目下作成中(6月末)であるが、中間的な申込項目、国別の申込数は第3表のようである。最近の世界的な不況の中で、発展途上国のみでなく米国などの先進国よりの希望者も経費的に参加決定を最終的にすることは現在のところ仲々流動的である。したがってプログラムの最終決定が仲々困難なこともこのような国際学会のなやみの一つである。

第3表 国別講演見込数
(含シンポジウム発表)

国 (地域)	一般講演	シンポジウム	計
日本	59	2	61
USA	13	4	17
インド	13		13
オーストラリア	8		8
ニュージーランド	4	1	5
韓国	4		4
マレーシア	2	1	3
西独	2		2
インドネシア	?*	1	1+?
フィリッピン	1	1	2
香港, タイワン, 東独, レバノン, カナダ, ブラジル, コロンビア	各1		各1

注: *1以上が推定される。

参加者は約300名位と予定されるが、規模としては中、小程度であり、必ずしも大きくはない。

さて、現在のところ参加を予定される主な外国の雑草研究者を紹介しておこう。(順不同)

L.J. Matthews (ニュージーランド): ニュージーランドの国立 Ruakura 農業研究センターの専任研究者。ニュージーランドの雑草研究の第一人者であり、氏の筆になる「Chemical Methods of Weed Control」はニュージーランドの雑草問題を理解する好著である。前会長として APWSS の組織化、発展に精力的に貢献した。

W.B. Ennis, Jr. (USA): 現在米国 USDA の Staff Scientist. 前 USDA 植物保護部門の Head leader であった。1956-58年度のWSSAの会長であり、1970 USA カルフォルニアにおけるFAOの国際雑草会議のChairmanを務めた。最近のしらせによると、8月より Florida 大学教授兼農業研究センター所長として転出の予定といわれる。

M. Soerjani (インドネシア): インドネシア熱帯生物研究センター研究員、インドネシア雑草学会の会長。チガヤの生態防除で業績をあげ、最近は水生雑草防除の研究のリーダー役を務めている。

R.R. Romanowski (U.S.A.): U.S.A. のバーデュー大学園芸教授。ハワイ大学以来の園芸関係雑草防除研究所の第一人者であり、APWSSの第1, 2回のSecretaryとしてその組織づくりに貢献した。

A.K. Seth (マレーシア): ICI, 東南アジアのManager. マレーシアのPlantation Cropの雑草防除の第一人者。

S.K. DeDatta (フィリッピン): IRR I のAgronomist, 元来土壌肥料研究者。最近では除草剤、雑草研究を行っており、来日も数度。

M.R. Vega (フィリッピン): IRR I の

Assistant Director. 第2回APWSSのChairmanを務め、また前フィリピン雑草学会会長。

L.C.Burriel (USA) : オレゴン大学のIPPC専任研究員。熱帯地域の除草剤研究、指導に活躍。IWSSの運営委員の一人。

M.K.Mooloni (インド) : 前インド雑草学会会長。現在インド農業科学会議副議長。

P.M.Mickael (オーストラリア) : シドニー大学研究員。雑草ヒエ (Echinochloa) の分類、分布の研究を行なっている。

J.D.Fryer (英国) : 英国のARC雑草研究所長、EWSの運営委員長。国際会議に度々出席、欧州の雑草研究第一人者。

P.C.Kearney (U.S.A.) : 米国USDA (ベルツビル) の除草剤の土壌残留、土壌行動の研究の世界的権威。

M.Lambert (ニューカレドニア) : 仏国よりの南太平洋委員会の農業関係責任者。APW

SS会議には連続参加。

む す び

以上第5回APWSS会議開催を前にして、これまでのAPWSSの経過、第5回会議準備状況の概略を紹介した。具体的なプログラムは仲々流動的であるが、この会議が外国よりの参加者のみでなく日本の参加者にとっても有益な情報交換の場であり、今後の世界的な雑草防除研究技術の健全な発達、ひいては食糧増産への貢献のための礎石となり、また我が国における雑草研究の認識、位置付けを見直す一つの機会になれば幸いである。最後にこの会議開催については、日本雑草学会、(財)日本植物調節剤研究協会による組織委員会のご協力、さらにまた農林省、学術会議などの後援が予定されており、本誌を借りて厚く感謝する次第である。

(筆者1973～75年度APWSS会長)

昭和49年度秋冬作芝生関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和49年度秋冬作芝生関係の委託試験成績検討会は、昭和50年7月22日、火曜日、東京(東京農林年金会館)にて、試験場関係者等15名、委託関係者等(会社関係者)33名参加のもとに、除草剤14薬剤の試験について、

成績の報告がなされ、活ばつな質疑、検討が行なわれた。

その判定等結果は次の通りである。

昭和49年度秋冬作芝生関係除草剤試験薬剤判定表

No	薬 剤 名 (種類名) <商品名>	剤 型	有効成分および その含有率	委 託 者 (会 社 名)	前 回 判 定	新 継 の 別	対 象 芝 種 類 名	対象雑草 種 類 名	試 験 担 当 場 所 名 (数)	今 回 判 定 結 果	判定理由, 内容 そ の 他
1	2,4-D・ G-315 [2,4PA・ オキサジア ゾン プラスコン R]	水 和	2,4PA:2,4 ージクロルフ ェノキシ酢酸 ナトリウム 50% オキサジアゾン :5-tert ーブチル-3 ー(2,4-ジ クロル-5- イソプロポキ シフェニル) 1,3,4-オキ サジアゾン- 2-オン 10%	日産化学工業	実 ・ 継	継	コーライ 芝 (ヒメコー ライ芝)	イネ科お よび広葉 雑草一般	千葉農試, 柏GC, 新 沼津CC	実	[コウライシバ, ノシバ, ティフ トン] スズメノカタ ビラ等1年生 イネ科雑草発 生前0.75~ 1.0g/m ² 全 面土壌処理 〔注:薬害に 注意〕
2	A-820 [トルイジン系]	粒	N-sec-ブチ ル-4-tert ーブチル-2, 6-ジニトロ アニリン 4.0%	2,4-D協議会 [日産化学工業 石原産業]	実 ・ 継	継	芝一般	イネ科	東京農試, 静岡農試高 冷地分場, 総成CC, 小金井CC	実 ・ 継	実:[コウライ シバ, ヒメコ ウライシバ, ノシバ] スズメノカタ ビラ等1年生 イネ科雑草発 生前15~20 g/m ² 全面土 壌処理 継:薬量アップ で広葉に対す る効果の検討
3	KH- 7205 [TCTP・ IPC]	水 和	TCTP:テト ラクロルテレ フタル酸ジ メチル 62.5% ICC:イソブ ロビル-N- (3-クロル フェニル)カ	キング化学	継	継	日本芝	スズメノ カタビラ 等秋イネ 科, 1年 生雑草	東京農試, 柏GC, 程 ヶ谷CC, 西日本グリ ーン研究所	実 ・ 継	実:[コウライ シバ, ノシバ] スズメノカタ ビラ等1年生 雑草発生前2 ~3g/m ² 全 面土壌処理 継:処理時期と 薬害との関係,

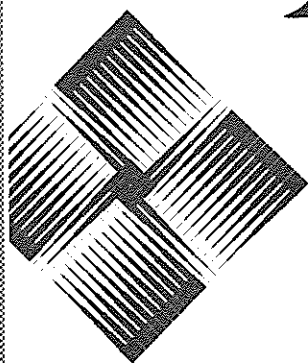
No	薬 剤 名 (種類名) <商品名>	剤 型	有効成分および その含有率	委 託 者 (会 社 名)	前 回 判 定	新 継 の 別	対 象 芝 種 類 名	対象雑草 種 類 名	試 験 担 当 場所名(数)	今回 判定 結果	判定理由, 内容 そ の 他
3	つづき		一バメート 12.5%								広葉雑草に対 する効果の確 認
4	MT-110 〔ジフェニル エーテル系〕	水 和	2,4ジクロルー 6-フルオル フェニル-4 -ニトロフェ ニルエーテル 50% 〔1日 MO-500〕	三井東圧化学	継	継	芝一般 (薬害: ベントグ ラス, コ ウライシ バ)	イネ科を 主とする 1年生お よび多年 生雑草	東京農試, 程ヶ谷CC, 新沼津CC, スリーハン ドレッドC, 植調研究所	実 ・ 継	実:〔コウライ シバ, ティフ トン〕 スズメノカタ ビラ等1年生 イネ科雑草発 生前0.4g/m ² 全面土壌処理 継:対象草種と 薬量との関係, 薬害と薬量と の関係について 検討
5	R-7465 〔ナプロ バミド クサレス〕	水 和	2-(α -ナフ トキシ)-N, N-ジエチル プロピオンア マイド 50%	R-7465 研究会 芝生部会 〔トーマン, 日本農薬, 中外製薬, 東洋グリー ン, ストフ ァージャバ ン〕	(S 49) 春 夏 作 で 「 実 ・ 継 」	新	日本芝全 般および ベントグ ラス	1年生イ ネ科広葉 雑草(ス ズメノカ タビラを 主とする)	千葉農試, 総成CC, 程ヶ谷CC 関西グリー ン研究所, 西日本グリー ン研究所	実 ・ 継	実:〔コウライ シバ〕 1年生イネ科 雑草発生前 0.3~0.6g/m ² 全面土壌処理 継:広葉雑草に 対する効果の 確認(対象草 種と効果の関 係について)
6	S-28 〔有機リン系 クレマート〕	乳	0-エチル-0 -(ラーメチ ル-6-ニト ロフェニル) -N-sec- ブチルホスホ ロチオアミデ ート 50%	住友化学工業	実 ・ 継	継	コウライ シバ, ヒ メコウラ イシバ	秋冬期発 生一般雑 草	千葉農試, 小金井CC, 相模原CC 関西グリー ン研究所, 西日本グリー ン研究所	実	キク科を除く 1年生雑草発 生前0.6~1.0 ml/m ² 全面土 壌処理 〔注:ただし ターフを形成 した芝生に限 る〕
7	SAP	粒	N-(2-メル カプトエチル)	東洋グリーン	継	継	日本芝お よび西洋	スズメノ カタビラ	柏GC, 程 ヶ谷CC,	実 ・ 継	実:〔コウライ シバ〕

No	薬 剤 名 (種類名) <商品名>	剤 型	有効成分および その含有率	委 託 者 (会 社 名)	前 回 判 定	新 継 の 別	対 象 芝 種 類 名	対象雑草 種 類 名	試 験 担 当 場所名(数)	今回 判定 結果	判定理由、内容 そ の 他
7 し じ き	[S A P ロンバー]		ベンゼンスル ホンアミドー S- (0.0- ジイソプロピ ルホスホロジ チオエート) 12.5%				芝各種	ほか1年 生雑草	関西グリー ン研究所, 西日本グリー ン研究所		スズメノカタ ビラ等1年生 イネ科雑草発 生前10~15 g/m ² 全面土 壌処理 継: 散布方法お よびキャリヤ ーについて再 検討
8	bensulide [S A P スコット・ウ イードグラス ブレンター]	粒	N- (2-メル カプトエチル) ベンゼンスル ホンアミドー S- (0.0- ジイソプロピ ルホスホロジ チオエート 8.5%	ITT, ファ ーイースト, アンド, パシ フィック (C.M. Scott & sons)		新	ベントグ ラス, コ ウライシ バ	スズメノ カタビラ ほか1年 生雑草	千葉農試, 程ヶ谷CC, 日本緑営芝 生研究所, 相模原GC, 中津川CC, 関西グリー ン研究所, 西日本グリー ン研究所 植調研究所	実 ・ 継	実: [コウライ シバ, ティフ トン] スズメノカタ ビラ等1年生 イネ科雑草発 生前15~22.8 g/m ² (専用 散布機により) 全面土壌処理 継: 剤型, 散布 方法について 再検討
9	simazine [C A T シマジン 500FW]	フロア ブル	2-クロルー4, 8-ビスエ チルアミノ S-トリアジ ン 50%w/v	日本 チバガイギー		(実・継) (S48秋冬作分)	コウライ シバ	芝地1年 雑草	植調研究所	実	[コウライシバ, ヒメコウライシ バ, ノシバ] 雑草発生前 0.2~0.8ml/m ² 全面土壌処理 昨年の継続事 項を取り除き “ 薬害につい ての実態調査 をする ” との 注意事項を入 れる。
10	SK-41 尿 素 系	水 和	1-(α,α -ジ メチルベンジ	昭 和 電 工	実・継	継	日 本 芝 ティフトン	スズメノ カタビラ	東京農試, 程ヶ谷CC,	実・継	実: [コウライ シバ]

No	薬 剤 名 (種類名) ＜商品名＞	剤 型	有効成分および その含有率	委 託 者 (会社名)	前 回 判 定	新 継 の 別	対 象 芝 種 類 名	対象雑草 種 類 名	試 験 担 当 場所名(数)	今回 判定 結果	判定理由、内容 そ の 他
10	つづき		ル)ー8ーメ チルー3ーフ ェニル尿素 50%				スズメノ テッポウ 等1年生 雑草全般	那須ナセリ ー、関西グ リーン研究 所、西日本 グリーン研 究所			スズメノカタ ビラ等1年生 イネ科雑草発 生前0.5~1.0 ml/m ² 全面土 壌処理 継：広葉雑草に 対する薬量増 加による効果 確認
11	SSH-36 〔アシュラム ・アイオキ シニル アシュメッ クス〕	液	アシュラム：N ーメトキシカ ルボニルスル ファニルアミ ド(Na) 23% アイオキシニル ：3.5ージョ ードー4ーオ クタノイルオ キシベンゾニ トリル 23%	塩野義製薬	継	継	日本芝	スズメノ カタビラ ほか1年 生雑草全 般	関西グリー ン研究所	継	薬量と薬害の関 係の再検討およ び温度と散布時 期の関係につい て検討
12	SY-72 〔MCP・ レナシル シバゲン〕	粒	MCP：2ーメ チルー4ーク ロルフェノキ シ酢酸 3.0% レナシル：3ー シクロヘキシ ルー5,6ート リメチレンウ ラシル 1.0%	石原産業	継	継	ベントグ ラスを含 む芝全般	越年生の イネ科広 葉型雑草 全般	東京農試、 にのみやC C、スリー ハンドレッ ドC、関西 グリーン研 究所、西日 本グリーン 研究所	実・ 継	実：〔コウライ シバ〕 スズメノカタ ビラ等1年生 (イネ科)雑 草発生前10 ~20g/m ² 全面土壌処理 継：広葉雑草に 対する効果の 確認、剤型、 散布方法につ いて検討
13	TS-1	水 和	MCPP：2ー (2ーメチル	トーメン 昭和電工	実・ 継	継	日本芝 ノシバ	スズメノ カタビラ	柏GCC、島 ヶ原CC、	実・ 継	実：〔コウライ シバ、ノシバ〕

No	薬 剤 名 (種類名) <商品名>	剤 型	有効成分および その含有率	委 託 者 (会社名)	前 回 判 定	新 継 の 別	対 象 芝 種 類 名	対象雑草 種 類 名	試 験 担 当 場 所 名(数)	今 回 判 定 結 果	判定理由、内容 そ の 他
13 つづき	MCPP・ DSMA (SK-41)		—4'-クロロ フェノキシ) プロピオン酸 (K) 9% DSMA:メチ ルアルソン酸 ジナトリウム 塩 18% SK-41:1 (α,α -ジメ チルベンジル) —3-メチル —3-フェニ ル尿素 36%					スズメノ テッポウ 等	中津川CC		スズメノカタ ビラ(等1年 生イネ科雑草) 発生前〜始期 1.4~2.8g/m ² 全面土壌処理 継:DSMAの 効果(DSMA を混合する意 味)について、 翌春のハマス ゲ、ヒメクゲ 等の発生に対 する効果の確 認
14	TSN —048 [Diethamine]	乳	NN—ジエチル —2,4—ジニ トロ—6—ト リフルオロメ チル—m—フ ェニレンジア ミン 25%	トモシェーリング	継	継	コウライ シバ	メヒシバ	茨城GC, 熊谷GC, 中津川CC, 富士宮GC, 東京よみう りCC	継	(有望であるが) 試験年次不足

新発売



水田多年生雑草防除に

バサグラン * 粒剤 水和剤

特 長

- 水田多年生雑草にすばらしい効果を示す。
- 散布適期の幅が広く、生育期(発生盛期〜増殖初期)散布での効果が高い。
- 稲にも、人畜・魚貝類にも非常に安全性が高い。

適用雑草 ミスガヤツリ・ホタルイ・フリカフ・ヘラオモダカ・水田一年生広葉雑草

効果と安全の信頼にたえる



東京都千代田区九の内1-3-2

*はドイツBASF社の登録です。

水田の多年生雑草の発生面積一覽表

昭和49年11月調べ (財)日本植物調剤研究協会

県名	昭和49年度 水稲作付面積 (ha)	草種別発生面積 (ha)						水稲作付面積に対する同左比率(%)					
		ホタルイ	ウリカワ	オモダカ	ミズガヤリ	クログイ	その他	ホタルイ	ウリカワ	オモダカ	ミズガヤリ	クログイ	その他
北海道	185,000	120,300	5,000	114,800				65.0	2.7	80.0			
青森県	森手	70,000	35,000		7,000			50.0			10.0		
	官城	90,240	30,000	2,300 (15,000)	12,000	4,000		33.2	2.5	25 (16.6)	13.3	4.4	
	秋田	118,400	51,000	28,000	31,000	28,000		43.1	23.6	(7.8) (24.9)	26.2	23.6	
	形島	120,700	8,000	3,000 (30,000)	27,000	15,000	セリ 5,000	6.6			22.4	12.4	4.1
	福島	100,000	9,000	40,000	40,000			9.0		(40.0)	40.0		
北小計	104,000	50,000	10,000	10,000	50,000	10,000		48.1	9.6	9.6	48.1	9.6	
茨城県	小計	603,340	183,000	40,300	126,300	167,000	57,000	50.0					
	茨城	102,800	26,800	20,400	19,200	34,500	6,300	セリ 84.0 ヒルムシロ 7,000	20.1	19.8	18.7	33.6	6.1
	栃木	92,000	15,000	10,000	5,000	25,000		16.3	10.9	5.4	27.2		セリ 8.2 ヒルムシロ 6.8
	馬場	32,000		8,000					25.0				
	玉野	61,000	10,000		10,000				16.4		16.4		
	千代田	80,000	50,000		5,000	60,000	200	58.1		5.8	69.8	0.2	
	東京	1,200				あり	ヒルムシロ あり						
	神奈川	6,500			1,300						20.0		
	山梨	11,000	3,000	2,000	3,000	2,000		27.5	18.2	27.3	18.2	18.2	
	長野	62,000	30,000	3,000	20,000	1,000		48.4	4.8	32.3	1.6		
東小計	35,500	1,000	3,000	500	7,000	1,000		2.8	8.5	1.4	19.7	2.8	
北小計	490,000	125,800	56,400	52,700	140,800	95,000	15,400						
新潟県	新潟	171,000	12,000	33,800	26,200	34,300	13,000	セリ 103.0 ヒルムシロ 10,300	7.0	19.8	15.3	20.1	7.6
	富山	64,000	10,000	25,000	5,000	13,000		20.7	39.1	7.8	20.3		6.0
	石川	44,500	9,000	19,000	11,000	16,000		20.2	42.7	24.7	35.9		
	福井	42,400	6,000	9,000	5,000	13,000		14.2	21.2	11.8	30.7		
北小計	321,900	46,000	86,800	47,200	76,300	13,000	10,300						
岐阜県	岐阜	50,000	5,000	15,000	5,000	7,000	セリ 6,000	10.0	30.0	10.0	14.0		12.0
	愛知	57,000		17,100		3,000	1,000		30.0		5.3	1.8	
	三重	60,000	2,000	25,000	(5,000)	10,000	キシムスズメ 1,000	3.3	41.7	(8.3)	16.7		1.7
	小計	167,000	7,000	57,100	10,000	20,000	7,000						
静岡県	滋賀	53,400	4,700	10,970		6,100	セリ 4,500 ヒルムシロ 2,400	8.8	20.5		11.4	セリ 7.6 ヒルムシロ 4.5	17.6
	京都	29,000	2,900	8,700		2,300	セリ 5,800	10.0	30.0		7.9		20.0
	大阪	13,500		4,050		2,700	セリ 1,400		30.0			20.0	10.4
	兵庫	73,000		21,000		11,000	セリ 8,000 ヒルムシロ 9,000		23.8		15.1	セリ 2.7 ヒルムシロ 12.3	12.3
	奈良	20,000	3,000	6,000		2,000	セリ 6,000	15.0	30.0		10.0	15.0	30.0
	和歌山	18,000		4,500		3,000	セリ 1,000		25.0				5.6
小計	206,900	10,800	55,220		21,400	11,750	44,000						
中国	鳥取	26,000	アリ	6,500		2,800	ヒルムシロ 1,300		25.0		10.0		5.0
	島根	39,800	3,000	3,000	500	4,500	セリ 3,000	7.5	7.5	1.3	11.3		7.5
	岡山	64,000	6,400	19,200		6,400	アリ	10.0	30.0		10.0		
	広島	51,000	20,400	12,750	(2,800)	5,100	アリ	40.0	25.0	(5.0)	10.0		
	山口	46,000		20,000					43.5				
	徳島	22,000	2,200	11,000	アリ	2,200		10.0	50.0		10.0		
	香川	27,000		2,700					10.0				
	愛媛	30,000	3,000	8,000	300	500	アリ	10.0	26.7	1.0	1.7		10.0
高小計	25,000		8,700			2,400			34.8		9.6		
九州	福岡	80,000	アリ	45,000		7,500	アリ		56.3		9.4		
佐賀県	佐賀	50,000	アリ	15,000		1,500	アリ		30.0		3.0		
	長崎	27,000	500	5,500		3,000	500	1.9	20.4		11.1	1.9	2.9
	熊本	70,300	2,000	20,000	700	8,000		2.8	28.4	1.0	11.4		
	大分	42,000	1,000	20,000	アリ	1,000	セリ アリ	2.4	47.0		2.4		
	宮崎	36,000	1,500	7,000		2,000	アリ	4.2	19.4		5.6		
	鹿児島	48,000	アリ	20,000		5,000	10,000	セリ アリ	41.7		10.4	2.1	
小計	353,300	5,000	132,500	700	28,000	15,000	800						
沖縄													
総計	2,658,240	532,700	525,170	388,300	477,200	93,750	89,800	計21.0	69.20				
		20.0	19.8	14.6	18.0	3.5	3.4		79.3				

註：1) 数値は、昭和49年度水稲作付関係除草剤地域別成績検討会の席上で専門技術員より聞き取った概数である。

2) ()内はヘラオモダカ

植調協会だより

◎ 会議開催日程

- ・昭和49年度秋冬作芝生関係除草剤試験成績
検討会

日 時：昭和50年7月22日（火）

10:00～17:00

場 所：農林年金会館（東京都港区芝西久保
巴町36-1）

- ・昭和50年度水稻関係除草剤展示圃試験現地
研究会（北陸地域）

日 時：昭和50年7月14日（月）～15日（火）

場 所：福井県庁総合農政課・現地圃場

・昭和50年度農薬残留量分析委員会（追加分）

開催年月日	会 議 の 名 称	会 場
S.51.1.20(火)	昭和50年度農薬(作物) 残留量分析委員会(第6 回：通算41回)	日本都市セン ター本館第7 会議室 (TEL 265-8211)
S.51.1.21(水)	昭和50年度農薬(土壌) 残留量分析委員会(第5 回：通算25回)	同 上
S.51.2.24(火) 25(水)	昭和50年度農薬(作物) 残留量分析委員会(第7 回：通算42回)	同 上
S.51.3.23(火)	昭和50年度農薬(作物) 残留量分析委員会(第8 回：通算43回)	同 上
S.51.3.24(水)	昭和50年度農薬(土壌) 残留量分析委員会(第6 回：通算26回)	同 上

編 集 後 記

うっとおしい梅雨もあけ、やがて小暑から大暑へとかわり、暑い日々が続くようになる。今年は陽性梅雨とやらで、雑草の生育もよく、手入れの悪い田畑や山林は、一面雑草におおわれ、足を踏み入れる場所もないほど旺盛である。

暑い日々が続くようになると、冬雑草の種子は実を結び、種子を地上に散きちらして枯れ果てゝゆく。冬雑草は、作物に対して害をおよぼすことも少ないので、農業経営者もあまり関心を持たないが、夏雑草に対しては強い関心を持ち、これの防除に懸命となる。しかし、雑草の生態を知らずして雑草を防除することは難かしい。雑草の生態について、各国の研究者が懸命な研究を続け、これの合理的な防除法について試験を繰り返してきたが、これらの研究結果についてAPWSS（アジア・太平洋地域雑草学会）を組織し、2年ごとに会議を開催している。今年は日本が開催国となり、第5回の会議を日本学術会議（東京）において開催することにな

っているが、わが国の雑草防除研究者の積極的な参加を促す意味で、野田健児氏（現APWSS会長）に執筆を仰ぎ、本誌に掲載した次第である。

雑草に対する考え方も、植物学者と化学者とは異なるかも知れぬが、要は、作物の生育に害をもたらす雑草を防除し、農業生産の向上に寄与することにあるので、各学者が手を握り、前進を願う次第である。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
電話 東京(03)502-4188(代)

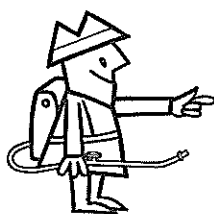
昭和50年7月発行

植調第9巻第4号

¥250（送料50）

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長八
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-8 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-8888番



雑草を速やかに枯らす
武田の除草剤——！



武田グラモキソン[®]

水田の畦畔、刈取後、休耕田の除草、
そさい畑の播種前、植付前、生育期の畦間、収穫後の除草
果樹園、桑園、茶園の下草除草、
牧野、非農耕地などの除草

トレファノサイド[®] 乳剤

各種のそさい類、畑作物、花卉類、茶園、桑園、森林苗畑の除草

調和をめざすカヤクの農薬！

■桑園除草に

粒状 ゲザバックス

■水田除草剤

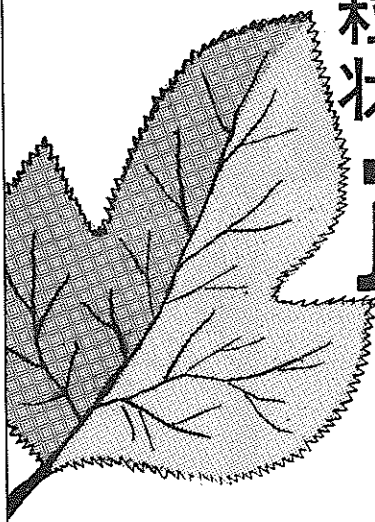
パウナックスM[®] 粒剤 3.5

- ノビエ2葉まで枯殺出来る。
- マツバイ・ウリカワに効果が高い。

■水田の雑草に

ゲザエム[®] 粒剤

- ノビエ・マツバイに特効。



日本化薬株式会社

〒100 東京都千代田区丸の内1-2-1

果樹園の下草除草に



優秀農薬として発明賞受賞の DCPA・NAC除草剤

ワイダック® 乳剤

- 雑草には極めて強力な除草効果を示します。
- 除草期間は理想的です。(30～50日間)
- 根からの薬害がありません。
- 柑橘の茎葉にかかっても薬害の心配はほとんどありません。
- りんごその他落葉果樹に使用の際は葉にかからないよう散布して下さい。
- 尚ご使用の際は指導員によくおき下さい。

梅雨あけの夏期高温時に本剤2～3ℓを水150～300ℓに稀釈して、加圧噴霧機で雑草によく付着するように散布する。

《ワイダック普及会》

全国の農業協同組合で取扱っております。

クミアイ化学工業・大日本除虫菊
三笠化学工業・北興化学工業・長瀬産業
保土谷化学工業・(特別会員) 全農

事務局 保土谷化学工業株式会社
東京都港区芝罘平町2の1 TEL 03(502)0171代表

二十世紀なしの 熟期促進、収穫・出荷の調節に

エスレイル10

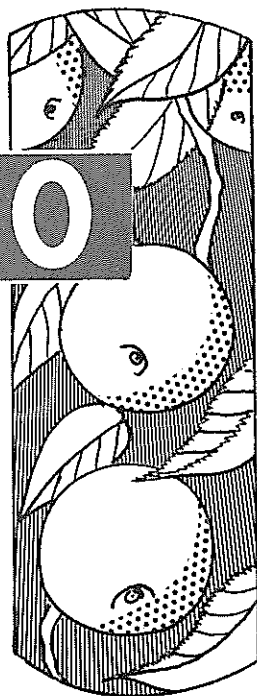
●——特長

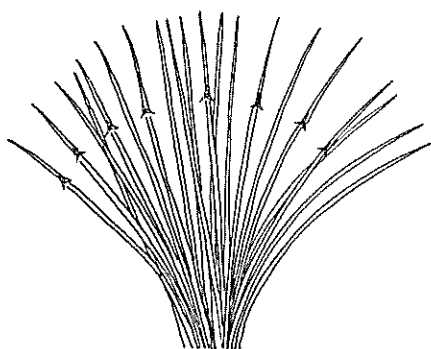
1. 果実の品質を変えず、熟期・収穫期を促進します。
2. 散布時期を変えることにより、収穫時期の調節ができます。
3. 収穫期の調節によって、収穫労力の適正配分と、計画出荷ができます。
4. 収穫果実の品質のバラツキを少なくします。

2・4-D協議会

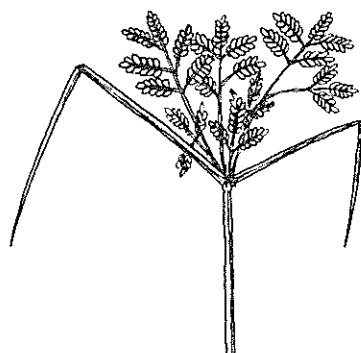
★ 日産化学

▲ 石原産業





ホタルイ



ミズガヤツリ

ホタルイ、ミズガヤツリにも！

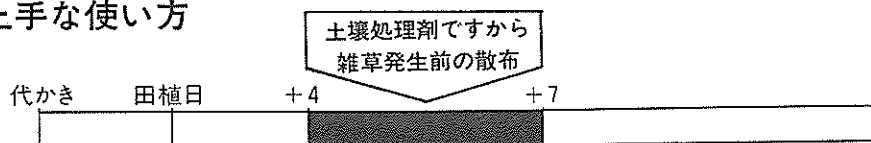
マーシェット粒剤

※米国モンサント社商標

■特 長

1. ノビエ、マツバイはもちろんのこと最近問題のホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、オオアブノメにも良く効きます。
2. 効力の持続期間が長い(普通40日間)ので、本剤の処理で十分な効果が期待できます。

■上手な使い方



マーシェット普及会

三 共(株) 日本農薬(株) 北興化学工業(株)

事務局 日本モンサント株式会社

〒100 東京都千代田区丸ノ内3-4-1 新国際ビル

資料請求券
④ 係

われら **あひり** の仲間



安心とユトリをつくる

水田の草とりはおまかせください。
 安全で効きめが確かなサターン剤は
 いまいちばん多く使われている除草
 剤です。
 米づくりに今年も“サターン作戦”
 でユトリをおつくりください。

サターンS[®] 粒剤



申込みは皆様の農協へ

自然に学び自然を守る



クミアイ化学

東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル

サターンM[®] 粒剤

サターン[®] 乳剤

サターン[®] 粒剤

サターンバアロ[®] 乳剤



期待に応えて新登場!!

多年生・一年生
 雑草の同時防除に

ラメット[®] SIM 粒剤

- ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、
 ヘラオモダカなど、最近急激に問題化している
 多年生雑草をも防除できます。
- ノビエの3～4葉期処理でも卓効があります。
 散布適期幅が広いので、労力配分が容易で大変
 省力的です。
- 人畜、魚類にも安全です。



八洲化学工業株式会社

東京都中央区日本橋本町1-6(大和ビル)



三笠化学工業株式会社

福岡市中央区天神4-9-1